

第1回益田圏域県管理河川に関する減災対策協議会 議事概要

1. 日 時 : 平成29年5月30日(火) 14:30~16:00

2. 場 所 : 益田市市民学習センター 2階 202会議室

3. 出 席 者

(協議会委員)

益田市 : 益田市長(代理 危機管理監)

津和野町 : 津和野町長

吉賀町 : 吉賀町長

国土交通省 : 浜田河川国道事務所長

気象庁 : 松江地方気象台長

島根県 : 益田県土整備事務所長

島根県 : 津和野土木事業所長

(オブザーバー)

国土交通省 : 中国地方整備局河川部

島根県 : 防災部防災危機管理課

島根県 : 土木部河川課

4. 協議会の設立について(設立趣旨(案)の確認)

5. 協議会委員 挨拶

6. 議題

1) 規約(案)の確認

2) 議事

(1) 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく取組

(2) 現状の水害リスク情報や被害を軽減するための取組状況の共有

(3) 減災のための目標(案)

(4) 今後の進め方(案)

6. その他(情報提供)

防災気象情報の改善の取り組み、地球温暖化予測情報第9巻の概要

7. 議事結果

設立趣旨（案）、規約（案）、減災のための目標（案）、今後の進め方（案）について、協議会委員の賛同を頂いた。

8. 意見交換概要

【益田市危機管理監】

益田市では、昭和 58 年 7 月の集中豪雨により、益田川が氾濫するなど未曾有の被害を受けた経験がある。この経験を生かしつつ、社会全体で洪水に備える水防災意識社会を再構築するため、関係機関と連携協力して防災減災に取り組みたい。

【津和野町長】

津和野町は、9 割が山林で占めており急峻な地形は集中豪雨により土砂災害を受けやすい状況にある。平成 25 年の豪雨災害では 1 日で 381mm と観測史上最大の大雨に見舞われ、河川の氾濫等による甚大な被害が発生した。災害が発生し 4 年が経とうとしているが、この災害を教訓に町の防災対策の取り組みの一つとしてデジタル防災無線の整備を行い本年 4 月から運用している。本日の協議会の設立を契機に関係機関と連携を密にして防災対策に取り組んでいきたい。

【吉賀町長】

高津川は吉賀町を水源として 8 1 k m をかけて日本海へ流れているが、4 年前の 7 月豪雨では下流の津和野町で大きな水害が発生しており、上流から下流まで流域の市民の安全のために関係機関の協力が必要。また、吉賀町は年間 1900mm の降雨量があり、いつ災害が発生するか分からない中、減災に向けた取り組みを進めたい。

【津和野町長】

近年は、雨の降り方が昔と違い、局所的に激しい雨が降ることがあり、現在設置してある水位計だけでは、適切な避難勧告や避難指示が判断できないのではないかと考えている。昨今の雨の降り方は、過去に比べると局所的で激しい降り方にかわってきており、水位計の設置についても、もっと細部にわたって必要なのではないかと考える。